

平成29年度

視察研修報告書綴

研修日：平成29年11月7日（火）

視察研修地：福岡県大刀洗町、八女市

研修日：平成29年11月8日（水）

視察研修地：宮崎県日南市

研修日：平成29年11月9日（木）

視察研修地：宮崎県宮崎市

基山町議会

厚生産業常任委員会

基議厚産第310号
平成29年12月19日

基山町議会
議長 品川 義則 様

厚生産業常任委員会
委員長 久保山 義明

視察研修の報告について

本委員会は、視察研修を行いましたので、下記のとおり報告します。

記

1 視察日程

平成29年11月7日（火）～11月9日（木）

2 視察先・目的

（1）福岡県大刀洗町

・定住促進住宅整備事業（PFI方式）の取組状況について

（2）福岡県八女市

・子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について

（3）宮崎県日南市

・中心市街地活性化の取組状況について

・子どもの貧困対策の取組状況について

（4）宮崎県宮崎市

・ローカルシェアリングセンター「MUKASA-HUB」について

3 視察内容 別紙報告書のとおり

4 視察参加者

委員長 久保山 義明

委員 河野 保久

副委員長 栗野 久明

委員 牧 蘭 綾子

委員 大山 勝代

委員 末次 明

平成 29 年度 厚生産業常任委員会 視察研修報告

報告者 厚生産業常任委員長 久保山義明

参加者

厚生産業常任委員会（6名） 議会事務局1名 計7名
委員長 久保山 義明
副委員長 栗野 久明
委員 大山 勝代・河野 保久・牧菌 綾子・末次 明
事務局 久保山 晃治

研修日程・研修先及び目的

- 11 月 7 日 福岡県大刀洗町：定住促進住宅整備事業（PFI 方式）の取組状況について
- 11 月 7 日 福岡県八女市：子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について
- 11 月 8 日 宮崎県日南市：中心市街地活性化の取組状況について
子どもの貧困対策について
現地研修：子育て支援センター「ことこと」・油津商店街・
飫肥城址観光事業
- 11 月 9 日 宮崎県宮崎市：MUKASA-HUB

研修目的

基山町は、PFI 方式定住促進住宅、公立保育所建設に伴う子育て支援センター併設、中心市街地活性化基本計画、子どもの貧困対策生活実態調査、ローカルシェアリングセンターなど多くの事業を今年度に開始した。

町行政自らが視察した自治体をはじめ、その現状と取組について、同じ建物、説明を聞くことで行政と議会が情報を共有し、違う視点からの考え方を構築することを目的とし、研修を行った。

報告

1. 福岡県大刀洗町：定住促進整備住宅（PFI方式）の取組状況について

対応者：山内町議会議長、重松地域振興課課長、福岡地域振興課企画係長、
棚町議会事務局長

大刀洗町の概況

大刀洗町は、福岡県の中南域を占める筑後平野の東北部、筑後川の中流域に位置し、総面積 22.83 km²の平坦農業地域である。人口は、平成 19 年の 15,636 人をピークとするが、平成 29 年 3 月時点においても 15,552 人とこの 10 年間ほぼ横ばいの人口推移となっている。

定住促進整備住宅の取組について

整備の目的：

- 1) 子ども・子育てに適した住宅・地域を整備し、定住人口の増加
- 2) 公的不動産（町営住宅跡地）の有効活用
- 3) 町内経済の活性化

定住促進住宅「スカイラーク菊池」の概要

- ・面積 約 3,400 m²
- ・町営住宅跡地（公有地）＝土地取得費がかからない
- ・公共交通機関、保育園、学校、商店、病院等が近くにあり、入居者確保のリスクが少ない
- ・住宅棟（5階建） 27 戸
 - 1) 2LDKタイプ（64 m²） 9 戸 入居者負担 48,000 円
 - 2) 3LDKタイプ（73 m²） 18 戸 入居者負担 52,500 円
共益費 3,000 円 駐車場 3,000 円（2 台まで）
 - 3) 駐車場各戸 2 台×27 戸＋来客用 2 台＝56 台
駐輪場各戸 2 台
 - 4) コミュニティスペース
入居者等の福利施設として 1 回にスペースを設置

入居者の状況

- ・27 戸全室入居 入居者数 76 名
- ・混合世帯（新婚世帯で配偶者が町外居住者）を含めると、全世帯の 80%が町

外世帯

- ・27世帯中新婚・子育て世帯が85%。入居者では全体の90%を占める。
- ・入居申し込み居住地は町内38%、町外62%。近隣市町からの転入が50%。

今後の計画

- ・第2弾「スカイラーク上高橋」を大刀洗小学校隣接地に整備。平成30年4月入居開始を目指す。(24戸3LDK)
- ・住宅整備の要望が出ている地域への整備検討。
- ・町内で最も人口減少が進んでいる地域での整備検討。

主な質疑：

Q：入居率の損益分岐点は？

A：90%としている。

Q：90%を割った場合は、一般会計の補填もあり得るか？

A：いまのところ入居率100%で推移しているため、今のうちに多くの基金を積み立てたい。

Q：デメリット・不安な点をなにか感じるか？

A：デメリットは正直ない。少ない職員数のなかで、入居者からのクレーム対応や修繕個所の点検業務がなくなるのが一番のメリットだと思う。

Q：元町営住宅ということだが、入居者への配慮は？

A：転居費用1世帯当たり3.5万円を支給した。

Q：議会の反応は？

A：7：4で可決した。反対の理由は、空きアパートが多数あり、民業圧迫につながるという理由もあったが、民間アパートに3LDKが圧倒的に足りていない。よって、上高橋地区はすべてを3LDKとした。

Q：今後の計画は、区長会からの要望等を踏まえ検討するとあったが？

A：やはり若い人たちが集落からいなくなっていることに危惧されている地区がある。若い住民を増やすために各区長の連名で要望を受ける。

Q：入居率は立地によって大きく変わると思うが？

A：それだけでなく、使える公有地がないため、農地等の買上げも検討しないと

いけない。それが入居費用に加算されるので、より検討が必要。

Q：SPCの審査基準は？

A：経産省のプロポーザルガイドラインに基づき、技術点 75 点と提案加点 25 点としており、予定価格は事前公表とした。

研修所感

スキーム自体は基山町が取り組んでいる事業とほぼ同じである。公有地有効活用で立地がいい場所であれば入居率は問題ないと思われるが、やはり今後 10 年、20 年先が心配となる状況は変わらない。

どの世代に焦点をあて、移住優先なのか、住みかえ優先なのかも含めて運営面では基山町も十分に検討しなければならないだろう。

実際に建設・運営されている自治体の話は非常に参考になる部分が大きかった。

基山町にあったVFMとは何かを含め、公民連携のメリット最大限求められている事業だと再認識した。

2. 福岡県八女市：子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について

対応者：平島子育て支援課長、平嶋こども未来係長兼施設長、室園こども未来係兼地域子育て支援センター長、牛島議会事務局長、中園議会事務局

八女市の概況

八女市は福岡市から南へ 50 kmに位置し、福岡県内では北九州市に次ぐ約 482 km²の面積を有している。

人口は八女市、黒木町、立花町、矢部村、星野村と合併を行った平成 22 年に 37,415 人のピークを迎え、平成 29 年現在で 34,398 人と減少傾向にある。

子育て支援総合施設「やめっこ未来館」（地域子育て支援センター）について

施設概要：

- 1) 開所日：火曜日から日曜日（月曜日、祝日及び年末年始を除く。ただし、ハッピーマンデーは開所し、その翌日を閉所）
- 2) 開所時間：9時から17時
- 3) 正規職員：係長1名（施設長兼務）

- 主任 2 名（支援センター長兼保育士 1 名）
一般職員 2 名（うち保育士 1 名）
- 4) 嘱託職員：支援コーディネーター 1 名
支援センター 4 名（保育士又は教員免許所有者）
ファミリーサポートセンター事務員 3 名

施設の支援目標

支援理念

子どもの健やかな成長を援助し、地域と協働し、愛される施設を目指す

- ・八女市の未来を担う子どもの健やかな育成
- ・健全で自立した家庭づくりの推進
- ・地域社会との連携と協働

八女市子育て支援総合施設「やめっこ未来館」は、八女市立福島保育園と子育て支援センターの複合施設で、保育所の機能と子育ての総合的な支援を行う機能を備えている。それぞれの機能（施設型子育てと在宅型子育て）を連携し、さらに地域と協働することにより、八女市の未来を担う子どもの健やかな育成を目指す。また、子育て中の親子が仲間同士、みんなで楽しみ、考え、支えあっていける場を提供する。

施設内事業

来場者延べ人数…28,528 人（H27 年度比較+2,058 人）

市内 76.5% 市外 23.5%

○みらい広場…「やめっこ未来館」内のみらい広場では、子どもたちが安心して遊べ、子育て中の保護者の交流、情報収集する場を提供する。

○一時預かり事業…保育所（園）を利用されていない家庭も、日常生活の突発的な事情や、非定期的な就労・入院等で一時的に家庭での保育が困難となった場合等に一時的に預かる。

- ・ 6 か月以上の未就学児
- ・ 月曜日から土曜日
- ・ 4 時間以内…800 円 4 時間を超えて 8 時間以内…1,600 円
- ・ 利用定員…10 人

○ファミリー・サポート・センター事業

- ・ 1時間当たり… 7時から19時（200円）、19時から21時（400円）
（月～土）
（日・祝） 7時から19時（400円）、19時から21時（600円）
- おねがい会員 登録928名
- まかせて会員 登録193名
- どっちも会員 登録80名
- *おねがい会員は1時間当たり200円、まかせて会員は500円
（差額 300円は市負担）

○子育て相談事業

○福島保育所…定員120名（0歳児から5歳児、6クラス）

○子育てボランティアの育成…

- ・みらい広場、一時預かりサポーター 登録者数35名（有償）
- ・ボランティア登録者数164名（登園指導、食育、ヨガ、親子体操指導等）

○子育て支援員…登録60名

各種サークルや祭りなど、会員相互の協働体制が充実

Q：一時預かりの状況は？

A：週3日まで。給食は190円加算でいただいている。

Q：一時預かりは他の保育所でも行っているか？

A：やめっこ未来館をはじめ、9園で行っている。

Q：ファミサポは、このセンターでも活動できるのか？

A：本来は会員宅で行うことが多い事業だが、このセンターのみらい広場を使うことにより預かるほうも預けるほうも人の目があり、より安心して活動ができている。このことにより利用者が一気に増えた。

Q：市外利用者も多いように思うが？

A：一時預かりは10名定員なので、8名になった時点で市外はお断りする。

Q：総事業費は？

A：8億5千万円。約6億円が交付金事業で、社交金等を活用している。この場所は元県工業試験場跡地。

Q：病児・病後児保育の設置状況は？

A：公立八女総合病院駐車場横と黒木町、隣接する広川町の施設で行っている。

Q：ファミサポの登録者が多いが？

A：まずは、誰しものが不安なため集団での保育で慣れていただいている。コーディネーター役として嘱託職員3名をつけて、いつでも連絡が取れる状態を作っている。

研修所感

基山町も保育所建設の基本構想が発表され、保育所と子育て支援センターの併設を考えているため、今回の視察研修は非常に参考となった。

規模的にはセンター規模が大きいいため、何が必要で、何を重点目標とするのかをしっかりと精査する必要がある。

また、一時預かりやファミサポの仕組みはよくできており、安心して預け、預かることの信頼関係が手に取るように分かった。

また、ただ人任せにするのではなく、保護者や地域住民が自らこれらの事業に参画し、様々な事業の仕組みに関わっていくことの大切さもよく伝わった。

3. 宮崎県日南市：中心市街地活性化について

対応者：安藤地域振興課まちづくり係、大谷議会事務局

日南市の概要

日南市は、宮崎県の南部に位置し、延長 112 kmのリアス式海岸を有する日南海岸国定公園の指定を受けている。

総面積は 536.11 km²で面積の約 78%が山林等で占められている。

人口は 54,090 人で高齢化率は 35%。

年間 200 万人を超える観光客が訪れている。

日南市中心市街地活性化基本計画の概要について

中心市街地活性化の必要性

- 人口減少の抑制
- 高齢化社会への対応
- 消費の流失抑止
- 外貨の獲得
- 東九州自動車道開通までの基盤整備
- 財源の安定化（効率的な投資、財源の確保）

中心市街地活性化基本計画…平成 24 年 12 月～平成 29 年 3 月

基本方針

- ・誰もが楽しめるまちの形成
- ・便利で安心なまちの形成
- ・新たな来街を促す観光地の形成

目標

- ・来てよかった、また来たいまち

指標… 1 日平均歩行者・自転車通行量

現況値（H23） 3,599 人 目標値（H28） 4,100 人

実績値（H28） 3,914 人 →（H29） 4,840 人

- ・住みたい、住み続けたいまち

指標… 定住人口

現況値（H23） 3,281 人 目標値（H28） 3,400 人

実績値（H28） 3,079 人 →（H29） 2,997 人

計画事業（全 51 事業中、主な事業）

- ・商店街周辺 … テナントミックスサポート事業
多世代交流モール事業・複合機能ビル・立体駐車場整備・子育て支援施設整備・市民活動支援センター整備
- ・堀川運河周辺 … 歴的建造物の活用・水辺利活用

基本計画の推進体制

油津まちづくり会議（関係者が一堂に会し、情報の集約・共有等）



油津まちづくりワーキング（円滑かつ効果的な推進、プロジェクトの連携調整）



デザイン部会（新たな視点でものづくりを行うための助言）

*主な事業（実施主体：まちづくり会社「まちづくり日南（株）」

複合機能ビルの整備（優良建築物等整備事業）

- ・複合機能ビル整備… 8階建て、クリニックモール、市民活動視線施設、住宅17戸等
- ・立体駐車場整備… 5階建て、駐車台数152台、一部テナント

複合機能ビルの整備（都市再生整備計画事業）

- ・子育て支援センター
- ・市民活動支援センター

Q：まちづくり会社の役割は？

A：事業の実施主体者なので、複合ビルの建設をおこなった。10年ほど申請から認定までかかっており、まちづくり会社から急かされた経緯がある。

Q：以前からの住民、商店主の現在に対する反響は？

A：油津地区住民300人にアンケートを取ったが、返答率23%と低かった。これが、市民の当事者意識だとすればもっと上げていかないと自走はできない。商店街では、朝ミーティングを毎週水曜日に実施していた。それが今でも継続しており行政、商店主、住民のコミュニケーションが大切だと感じる。

Q：立地適正化計画についての考えは？

A：中活の義務ではないので、当面は考えていない。その予定もない。

4. 宮崎県日南市：子どもの貧困対策について

対応者：濱中こども課課長補佐兼こども政策係長、大谷議会事務局

日南市における子どもの現状

- 子どもの数
 - ・日南市 7,726人（14.5%、全国15.25%）
- 出生率（人口千対）
 - ・日南市 6.4（全国8.0）
- 年少人口割合
 - ・日南市 11.80%（宮崎県 13.75%）
- 合計特殊出生率
 - ・日南市 1.70（全国 1.38）
- ほか妊娠に関する状況
 - ・妊娠届け出期間 ・人工死産（出産千対）
- 健診等の状況
 - ・乳幼児健診受診率 ・健診結果
- むし歯保有率

市に寄せられる養育の相談・通報（262件）

- ・うち虐待件数 90件
ネグレクト 64件、心理的虐待17件、身体的虐待9件

児童扶養手当・就学援助の受給者

- ・児童扶養手当 日南市 669世帯（全世帯の2.9%、宮崎県 2.04%）
- ・就学援助世帯 日南市 全児童数の20.6%、5人に1人（H25 全国15.4%）

子どもの生活実態調査について

1. 平成28年10月実施

- 1) 小学校4年生から中学校3年生の2,470人を調査
- 2) 保育施設、小中学校の全保護者4,467人を調査（89.4%回答）
- 3) 民生委員児童委員、保育施設等の団体71人を調査

2. 目的

- 1) 子どもの生活実態調査
- 2) 必要な支援の把握

アンケートの特徴

アンケート項目の設定、調査方法の助言

- ・大阪府子どもサポーター、虐待防止アドバイザー 辻 由紀子氏
- ・NPO法人 リビングインピース 慎 泰敏氏

貧困調査という視点は表には出さない

子どもと保護者、それぞれに同じ項目で親子の認識等も比較

小中学校、教育委員会の全面的な協力で高い回収率が実現

質問項目は事業者任せにしない

印刷、配布、回収、集計は委託事業者。集計方法も市が指示。
各分野に結果を提供

アンケート結果の活用

民生児童委員をはじめとする、福祉関係者、学校、警察、保育園、PTAなどの代表者による支援体制整備計画の策定

⇒ 「日南市子どもの未来応援プラン」(H29～31年度)

3つの対策

- 1) 発見から支援につなぐ体制整備
 - ・相談、訪問体制の充実
 - ・養育力向上のための支援
 - ・社会的気運の醸成
- 2) 子どもへの支援
 - ・子どもの居場所づくり
 - ・食事の提供
 - ・学習支援
 - ・自己肯定感の醸成
- 3) 保護者への支援
 - ・就労支援
 - ・経済支援
 - ・住まいの支援

新規事業

- 1) 子どもの貧困対策シンポジウム
- 2) 子どもの居場所づくり研究会の設置運営
- 3) 子ども食堂支援（機運醸成、イニシャルコスト支援、運営アドバイス）

子どもの貧困対策の意義

- ・子どもの貧困放置…年間 2.9 兆円の経済損失（公費負担 1.1 兆円増）
- ・子どもの居場所、学習支援、子ども食堂など NPO やボランティアの活躍が重要なカギ
- ・育児放棄、貧困等は親の責任だけではなく、社会の責任
- ・子どもは公共財産。みんなで育てる

子育て支援センター「ことこと」

まちづくり会社所有の複合ビルに子育て支援センターを開設。

木育を基本とし、地元産杉をふんだんに活用した内装。

事業建設費 1 億 6,000 万円

平日平均 150 人 土日 300 人程度の来館

4 名の保育士と 4 名の嘱託職員で対応

Q：アンケート記述で気を付けたことは？

A：貧困調査という表現を出さないこと。

Q：やはり現実には厳しい数字に感じるが、今後の対応は？

A：子どもの貧困対策で最も難しいのが成果指標。

何をもって成功とするのかが鍵。

Q：アンケートで特徴的だったことは？

A：ある意味ショックだったのが、現在の相談相手として親、知人、配偶者の順であるが、市役所等の公的機関はわずか 0.8%。

しかし、希望する相談相手は公的機関 12%となる。つまり、まだ信頼関係が築けていないということだろう。

また、メールや電話相談を希望されると思っていたが、直接対話の希望が 77%と高い数字となっていた。

研修所感

午前中の2時間で、大変重い議題を2項目あげたことに反省をしている。つまり内容の濃い、衝撃的な視察研修となった。

中心市街地活性化基本計画については、やはり民間側からの働きかけやまちづくり会社の意義を慎重に考えるべきであり、何のために誰のために行う計画なのかを鮮明にしないと事業計画だけが先行してしまう。

また、子どもの貧困対策については、現実的な数字が目の前に出されることで、その深刻さが衝撃を与えた。

基山町での実態調査においても、調査をもとにどんな施策が打てるのか、ひとり親家庭が増大する中、自治体の役割をもう一度精査する必要がある。

なかでも、事業の進捗状況を示した理念に基づいた一覧表は、各課横断的に作成されており、年度事業が一目で理解できる。

このような先進事例を含め、今後の対応策としたい。

4. 宮崎県宮崎市：MUKASA-HUB（現地研修）

対応者：村岡MUKASA-HUB 代表

MUKASA-HUBとは

移転廃校になった小学校をリノベーションして、新しい息吹を吹き込むベンチャーや起業家が集まる地域ビジネスの拠点として本年度開設。

すでに、2階オフィス、コワーキングスペースは全て埋まり稼働している。

MUKASA-HUBは、宮崎市郊外高岡町穆佐地区にあり、ベンチャー企業向けのオフィス、最大100名が収容可能なコワーキングラウンジ、レンタル会議室、スカイプルーム、ネットワーキングラウンジ等、スモールビジネスを支援する様々な設備を備えた宮崎県最大規模のビジネス支援施設。

事業内容

セミナーの定期開催、商談会、プレゼンテーション、ピッチ等のイベント
コンサルティング、レンタルオフィス等

現在、近隣の三股町、都城市、えびの市等との地域包括連携協定を結びながら宮崎県内のスモールビジネス、起業支援をおこなっている。

なかでも、クラウドファンディングFAAVOとの連携により、新たなチャ

レンジを行いやすくする仕掛けや新しい産業を見直す仕組みづくりを提唱し、多くの若者や学生が相談に訪れている。

今後は、経産省、総務省等との連携により、スモールオフィスとしての拡大やゲストハウス等の機能も視野に入れ、新たな戦略を展開する。

視察所感

開設後、すぐに全国的に注目される施設をこの目で確認できたことはタイミング的に恵まれていた。

今までの行政的視点からではなく、まちづくり、起業支援の民間視点から実行に移される行動力には目を見張るものがある。

地方創生を標榜化させ、ハコだけができたが中身が機能しない施設が全国に山ほど生まれただろう。

その施設が、今後はこのMUKASA-HUBと連携することにより、新たに息が吹き込まれる可能性は高い。

理念である「可能性を世界とつなぐ」。

この言葉の裏には確固たる信念と戦略があると感じた。

これからの次世代の若者たちに「未来をつくっている手応え」を感じさせる唯一無二の空間であった。

基山町のローカルシェアリングセンターに目を向けると、順調に稼働しているとは言い難い。

いち早く、連携協定を結ぶことも視野に入れるべきではないかと感じた。

今回の視察を通じて

日南市のテーマである「創客創人」がすべてを表現しているように感じた。

つまり、「ハコより中身」「計画より実行」

そして、「人を創ることの大切さ」。

今後は、基山町発展に寄与するための提言、提案が重要となる。

最後に、快く受け入れていただいた各自治体関係者の皆様に感謝を申し上げ、報告といたします。

平成 29 年度 厚生産業常任委員会視察研修報告

報告者委員 栗野久明

視察日程 平成 29 年 11 月 7 日（火）～11 月 9 日（木）

視察先 福岡県 大刀洗町・八女市、宮崎県 日南市・宮崎市

研修目的及び研修先の概要

委員長報告に準ずる

○所 感

●福岡県 大刀洗町 定住促進住宅整備事業（PPP/PFI）

大刀洗町が公的不動産（町営住宅跡地）を有効活用して、子ども・子育てに適した住宅・地域を整備し、定住人口の増加と町内経済の活性化を目的とした、定住促進住宅整備事業を行っている。この事業は PFI を活用して 1 棟 27 戸入居者 80 名（5 階建て）で完成し、全室入居が決定して順調な事業のスタートを切っていた。

大刀洗町では、地区住民の要望を受けて、既に他地区において同様に住宅整備事業を行っている。さらにもう 1 棟も他地区に建築することも検討しているとのことであった。

計画当初、事業期間（30 年間）での入居率低下による事業収支に心配の声があったりして難航していたが、担当としては、前向きに事業を進めているとのことであった。なぜ地区から建設の要望があったのかの問いに、先行して建設された住宅に入居された住民が、地区の行事に参加してその地区が活性化している状況があり、情報の広がりから他地区も望むようになった。また、大刀洗町は、JR と甘木鉄道の接続利用や西鉄の利用で、二つのゾーンに分かれて住宅地が広がり、福岡や久留米方面の通勤や通学に便利なことから、入居希望者も確保できているとのことであった。

このことから、基山町はさらに立地が良いことから、同様の事業を進めても入居者については心配いらないと判断した。あとは、民間事業者の活力を導入し PFI 事業全体のリスク管理や運営に関して、議会もチェックしながら計画を進める必要はあると感じた。

●福岡県 八女市 子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について

広大な敷地（7,450 m²）に地域子育て支援センターと保育所が棟続きで併設されていた。

子育て環境としては抜群である。一方では、土地と予算のある市の規模では建

設可能な設備かなとも感じた。

地域子育て支援センター部門では、正規職員 5 名（施設長兼務）と嘱託職員が 8 名で各種子育てに関する相談や援助、一時預かりの事業を行っている。

各施設を見学しながら、一時預かりの状況や子育て支援員、施設内で参画するボランティアの活動や育成などの取組状況の説明を受けた。同様に保育所の部分も説明を受けた。

基山町は公立の保育園が老朽化していることから、建替えを機に公立と民営の保育園の建設計画を進めている。八女市のような広大な敷地はなく、基山町にマッチングした保育園の計画が望まれる。計画では、園児と保護者が安心して通える保育園であること、どこからでも、数人の大人の目が届くようなきめ細やかな安心安全な施設であるとともに、ほっとするような育児の場所を提供できるよう、今回の視察を通じて得た知識を活用し提言したい。

●宮崎県 日南市 中心市街地活性化の取組状況及び子どもの貧困対策取組状況について

1) 中心市街地活性化の取組状況

日南市の人口は昭和 30 年の 86,889 人をピークに減少の一途をたどり平成 27 年では 54,090 人となって、高齢化率も 35.0%急速に上昇している。そのような中、人口減少の抑止と高齢化社会の対応、消費の流出防止などを課題に上げ、中心市街地活性化を目指す必要性があった。

計画事業は 51 事業で主な事業として、商店街周辺ではテナントミックス事業、運河周辺では歴史的建造物の活用や水辺利活用、都市部の再生では複合機能ビルの整備などが示されていた。

この視察の説明は複合機能ビルの整備を行った一室の会場で行われた。市民活動の支援や託児所（一時預かり所）などをビルのリフォームで複合施設の機能を持たせていた。

テナントミックス事業は、基山町が講演を企画して、事前に油津商店街の再生プロセスの説明を受けていたが、企画を総合的にプロデュースする人材の確保が重要だと改めて感じた。また、商店街を再生するには空き店舗の入居に商店関係者の事業者にこだわらないことが重要とも教わった。

基山町にも人材は集まりつつあり、商店街の視察は重要であった。

2) 子どもの貧困対策の取組状況

子どもの貧困は表面上見えてこない根の深い問題であり、まずは実態を把握することため、日南市では子どもの生活実態調査をアンケートにより情報の収集を行っていた。

当市での特筆すべき事項は、アンケートの結果を基に支援の大項目を 3

つ上げ、発見から支援につなぐ体制整備、子どもへの支援、保護者への支援としてさらに細分化し、市が行う支援事業と担当課を明確に体系づけていた。基山町にもぜひ、どのような場面で、誰がどの時点で行うか明確にすることが望まれる。

●宮崎県 宮崎市 ローカルシェアリングセンターMUKASA-HAB
現地研修

人のつながり、コーディネートの重要性をここで再確認した。人材育成の講座や技術UP講座及び起業者支援の講座など、役所が中心となり企画して行う事業は数多く見られるが、得た技術をどう仕事につなげていけるのか悩む人は多いと聞いた。

人と人とを有機的につなぐ人の育成や交流の場所づくりこそ、まちづくりの重要な要素であると感じた。

まとめ

今回の視察研修は、かなりハードな日程であった。しかしながら、これからの基山町を考える立場、あるいは助言できる立場にある議員として、数多くの知識を見聞きすることで得ることができました。委員長の視察計画に感謝するとともに、町民の貴重な税金の一部を使っての視察を今後の町政に生かすことを誓って報告いたします。

視察地

- 1 福岡県大刀洗町 ・定住促進住宅整備事業（PFI方式）の取組状況について
- 2 福岡県八女市 ・子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について
- 3 宮崎県日南市 ・中心市街地活性化の取組状況について「油津商店街」
・子どもの貧困対策の取組状況について（日南市子育て支援センター「ことこと」）
- 4 宮崎県宮崎市 ・ローカルシェアリングセンター「MUKASA-HUB」
現地研修

1 大刀洗町

定住促進住宅（PFI方式）

1 棟目「スカイラーク菊池」整備

5階建て 27戸 2LDK(42,000円) 3LDK(52,000円)

2 棟目「スカイラーク上高橋」

24戸 3LDK(52,500円)

3棟目建設の検討が始まっている

所感

町単独で町営住宅を建設するのではなく、国の交付金を活用しながら、公民連携（PPP/PFI）で若い世代の定住促進を狙う。この方式を基山町も推進する計画があって、今回の先進地視察になった。所有権が町なので所有のリスクは町にあるが、設計・建設・維持管理・運営をPFIと民間事業者が行うというスタイルが新しい。この方式で建てた後、果たしてコンスタントに入居者を維持できるのかなど見通しが分からないが、町の定住促進に繋がればいいと思う。

2 八女市

八女市子育て支援総合施設「やめっこ未来館」は福島保育所と併設。

広々とした空間でファミリー・サポート・センター、みらい広場、一時預かり室、ランチスペースなどがある。駐車台数50台があり、子育て世代の拠点施設になっている。

所感

明治以降合併が繰り返され、平成22年周辺自体を吸収合併して、現在の広い八女市になっている。（面積482平方キロメートル）

基山町は、老朽化した基山保育園の建替えが緊急な課題であり、それに伴って子育て支援の大きな柱である「包括支援センター」も建設される。八女市の子育て支援総合施設を視察して、市と町の規模の違いはあるにしても、こういう施設が基山町にできれば、子育て安心の町になるだろうと思われた。

3 日南市「油津商店街」

「テナントミックスサポーターマネジャー」の全国公募

4年間 木藤さん 様々な仕掛け

店舗誘致目標 20 店舗 (H28 29 店舗)

商店街の通行量 2.5 倍

所感

全国の地方都市はご多分にもれず少子高齢化で、人口減少を食い止めるために、何らかの施策を行っている。基山町も中心市街地活性化計画のもと商店街のにぎわいを取り戻し、ここに住んでいて良かったと実感できるまちづくりが求められている。日南市油津商店街はマスコミにも何度か登場している。現在のアーケード街は単なる商店街が続くのではなく、小規模保育所、ユニークなコーヒーショップ、休憩スペースなどがあり、散策しやすいところだった。

3 日南市「子どもの貧困対策」

児童扶養手当受給者数は全世帯の 2.97% 就学援助世帯は全児童生徒の 20.6%
(いずれも全国・宮崎県に比べ、高い)

「子どもの生活実態調査」実施

集計結果に基づく支援体制整備計画策定「日南市子どもの未来応援プラン」

3つの対策 1 発見から支援につなぐ体制整備 2 子どもへの支援

3 保護者への支援

所感

基山町でも「子どもの生活実態調査」が実施されている。国は子どもの貧困率 16%という驚くべき数字を受けて、「大綱」で、国の施策と並行して自治体が対策を立てるよう指示している。基山町での調査結果を受けて、充実した子育て支援の施策が実施されるよう見守っていきたい。

平成 29 年度厚生産業常任委員会行政視察報告書

厚生産業常任委員会
委員 河野保久

日程及び視察先

平成 29 年 11 月 7 日 (火)

福岡県大刀洗町 定住促進住宅整備事業の取組状況

福岡県八女市 子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況

平成 29 年 11 月 8 日 (水)

宮崎県日南市 中心市街地活性化の取組状況
(油津商店街の現地研修も交えて)
子どもの貧困対策取組状況

平成 29 年 11 月 9 日 (木)

宮崎県宮崎市 ローカルシェアリングセンター
MUKASA-HUB (現地研修)

I はじめに

28 年度は「子育て支援施策」という単一のテーマでの視察研修であったが、今年度は現在基山町が行おうとしている多くの施策についての研修であったため、日々頭の切り換えをしておいた視察となった。昨年と違った意味での充実した内容に、期待も大きくふくらむ中での研修であった気がする。

視察の概要については委員長の報告に委ねることとし、所感を述べて報告としたい。

II 所感等

1 福岡県大刀洗町

(1) 定住促進住宅整備事業 (PFI 方式) の取組状況

- ① 整備の目的に、子ども・子育てに適した住宅整備することによる定住人口の増加が掲げられている。基山町ともほぼ合致している。
- ② まず 1 棟を建築し、その状況を見てから、次のことも考えるという無理のないスタンスで事業をスタートしている。用地についても、公有地の中から複数の区長の要望のあった所を採用している。そのため、入居者の自治活動も隣組がスムーズに組織されており、トラブル等もないとのこと。
- ③ 事業者の選定にあたっては、価格面はもとより、標準よりも提案内容を重視したとのこと。
- ④ 事業期間 30 年の事業収入の設定にあたっては、入居率 90% を維持するのは困難と考えられ、建築から 10~15 年の入居率を高め、積立額を確保することが重要で

あると感じた。

- ⑤ 既に2棟目が、平成30年4月入居開始を目指して整備中。基山町と比較して大きく異なる点は、用地に苦勞しない広い土地があること。うらやましい限りである。

なお、2棟目の建設の契約の議会で採決結果が「賛成7、反対4」であったとの興味深い議会だよりの記事があった。

(2) その他

役場庁舎の入口に、総合案内センターが置かれ、来庁した町民の対応をされていた。基山町でも検討・実施すべきではと思った。



大刀洗庁舎の受付



多目的ホール

2 福岡県八女市

(1) 子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況

- ① 八女市立福島保育所と子育て支援センターの複合施設で、元福岡工業技術センター材料開発研究所約7450㎡の跡地に、平成26年6月1日建設面積約2150㎡、延床面積2640㎡でオープンした施設。「広い、きれい」というのが第一印象。
- ② 一時預かり事業・ファミリーサポート・センター事業・子育て相談事業等各種の子育て支援事業を「地域住民や団体など、全ての社会資源が協働し、子どもの健やかな育成を図る」という支援方針をもとに展開している点が、素晴らしいと感じた。
- ③ 施設の中では、雨の日に保育園の運動会が室内で実施できる広さの「多目的ルーム」・みらい広場の横でみんなで料理を楽しむことのできる「ランチルーム」の2つが印象に残っている。
- ④ そして何よりも記憶に残っているのが、施設全体に関わる人々の温かい笑顔である。基山町でも保育園改築をはじめ種々の事業が行われようとしている。ぜひ皆が笑顔で集えるものとなって欲しい。

(2) その他

- ① 議長が公務のため不在であったが、わざわざ「歓迎のあいさつ」文をしたためてくれていた。細かい心配りがうれしい。

3 宮崎県日南市

(1) 中心市街地活性化の取組状況

- ① 「来てよかった、また来たいまち」の目標値として、平成 28 年 1 日平均歩行者・自転車通行量 4100 人、「住みたい、住み続けたいまち」の目標値として、同じく平成 28 年定住人口 3400 人を掲げて、51 事業を取り組んだが目標値には届かなかったとのこと。

どういう事業をやるにしても、何をどうするか具体的なものを掲げてやる必要があると感じた。

② 中心市街地の活性化に向けて「テナントミックスサポートマネージャー」を全国公募し、油津商店街の再生を目指し、平成 28 年では新しい店舗が 29 店舗の実績を上げたノウハウは見習うべき点が多い。その中でもっとも見習わなければと思ったのは、「商店街への応援団」を地道に増やしていく努力と、的を絞り迅速に動いて事業を仕掛けていく組織をしっかりと作ることだと感じた。

(2) 子どもの貧困対策の取組

- ① 子どもの生活実態調査のアンケート回収率が小中学校・教育委員会の全面的な協力で、約 90%と高いものとなっている点は素晴らしい。
- ② 子どもの貧困対策に取り組んでいく上で、最も重要なことは「子どもの貧困に対する町民への啓発を地道にしっかり行うことだ」という担当課長の話は参考になった。

基山町でも生活実態調査を行うが、併行して町民への講習会等子どもの貧困に対しての認識を深めていく活動が必要であると痛感した。

- ③ 貧困対策事業の所管が多く課にまたがっているため、進捗状況を一覧表に整理して事業を進めている手法は、基山町でも取り入れるべきと思う。

(3) その他

- ① 日南市では「人づくりこそがまちづくり」であるとの考えのもと、コンセプトとして「創客創人」を掲げ、市全体で共有している。素晴らしいことだ。

※「創客創人」とは

様々な分野において、今あるもの、資源の中から、人々が望む価値を見出し、それを実現する製品やサービスなどを創り出し、「新しい需要＝客」を創り、その客を幸せにする仕組みを創れる人材を育てること。

- ② 油津商店街は水曜日のためか、象徴ともいえる「油津コーヒー」をはじめ休業の店が多く、ちょっと残念だった。



創客創人センターの看板



油津商店街

4 宮崎県宮崎市

(1) ローカルシェアリングセンター「MUKASA-HUB」(現地研修)

- ① 廃校となった校舎を有効活用して、ビジネス支援施設としてリノベーションしたこの発想は、素晴らしい。
- ② 「主役は施設ではなく、この場所に集う人々」と紹介パンフレットに書かれている。それを地でいく施設であり、自由な空気に包まれた空間であった。
- ③ 施設の代表・村岡氏の「まちづくりは私の趣味であり、楽しんでやっている」という言葉は、共感そのものであった。

Ⅲ 結びとして

行程としてはかなりの強行軍であったが、1日1日の朝から晩まで、研修をはじめ夜のミーティング等ボリューム満載の充実した3日間であった。特に「子どもの貧困対策の取組」の視察研修は、基山町もこれから手がけていく取組であり、タイムリーな視察となり、自分自身のためにも大いに参考になった。

今回で得たものをこれからの基山町のまちづくりに活かしていくことが、さらにこの研修を有意義にする道であると思う。



MUKASA-HUB 玄関



村岡氏と意見交換風景

以上

「厚生産業常任委員会視察研修報告」

(日程……11/7～11/9)

報告者： 牧園綾子

<< 11月7日 (火) >>

No. 1

福岡県大刀洗町……定住促進住宅整備事業(PFI方式)の取組状況について

現在、基山町でも取り組んでいるPFI方式の定住促進住宅整備事業で、すでに2棟目を着工している大刀洗町で、事業収支(事業計画:30年間)、PFI方式にした経緯、リスクをどう分担するのか。また、現状の入居状況等を質問し、その説明を受けた。

- ▼ 事業収支については、債務負担行為の設定時に、①PFIにより従来型発注より事業費が10%削減できると試算 ②入居率は90%を見込んでいる ③家賃低廉化助成は、全世帯のうち2割が対象となると仮定 ④収支差引分は、大規模改修費用として基金積立、以上をその見込みとして計算した場合、従来の方式の約9～10倍の基金積立てができる計算となる。
- ▼ PFI方式を検討するにあたっては、まず先進事例を調査視察した。民間事業者の経営上のノウハウや技術的能力を活用し、30年間の維持管理を任せることで、平成20年度より技術・施設維持管理職員の数が不足していたが、職員の本来の仕事に専念できる。
- ▼ リスクの分担については、所有権が町にあるので、不可抗力で壊れた時の修復・建替えのリスクは町にある。ただし、入居業務は民間が行うので、家賃不払いの徴収、入居者の苦情や要求事項の対応は民間業者が行う。町はその民間業者がしっかり仕事をしているかを監視する義務を負う。
- ▼ 入居状況については、27戸全室入居しており、その27世帯の85%が、新婚・子育て世帯である。入居申込時、62%が町外からである。現在は2棟目を建設しているが、地元の区長さんからぜひにという声があり、町が計画したという説明があった。

福岡県八女市……子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組状況について

やめっこ未来館は、地域子育て支援拠点事業として、子育て中の親子が仲間同士で楽しみ、考え、支えあっていける場所を提供している。その取組の中で、実績として評価できる事業について、現状の問題点も含めた質問をし、詳しく現状の説明を受けた。

- ▼ 開所日時は、火曜～日曜(月曜、祝日及び年末・年始を除く)で、9時から17時。
来場者数は、前年より2,058人増、親子数689組増となっている。
- ▼ 一時預かり事業において、日常生活の特別な事情等により保育所を利用していない家庭においても、その支援として有料で行っている。
- ▼ ファミリーサポートセンター事業は、子育ての援助を受けたい人(おねがい会員)と、子育てのお手伝いをしたい人(まかせて会員)の双方を会員登録して、相互援助の手伝いを

コーディネートしている。1時間当たりの利用料を決め、おねがい会員の利用料に市の補助をプラスして、まかせて会員の受取金としている。まかせて会員はおけいこ期間を設け、コーディネートしている人ができると判断してからなので、まずはやってみるという形で会員数を増やしているという説明だった。



(やめっこ未来館入り口)



(子どもを預かっている広いスペースの部屋)



(廊下から部屋を写し、お迎えは写真奥の出口から)

<< 11月8日(水) >>

宮崎県日南市……中心市街地活性化の取組状況について(地域振興課)

子どもの貧困対策の取組状況について(こども課)

油津商店街(現地研修)

飫肥観光事業(現地研修)

・中心市街地活性化の取組としては、基本計画が平成29年3月で終了したので、計画事業の全51事業はとりあえず終了する。その上で、まちづくりの新しいスタートとして、計画事業で残された課題を検討し、再生された商店街(油津商店街)の維持、整備された施設(子育て支援センター「ことこと」)の利用頻度をアップさせる等の事業に取り組んでいるとの説明を受けた。その取組の一つに、油津商店街の再生事業があり、平成25年から平成28年にかけて新しい店舗が29店舗増え、商店街の通行量が約2.5倍になった。その経緯と取組の内容について詳しく説明を受けた後、商店街を視察した。

▼ テナントミックス・サポートマネージャーは、①採用後は日南市に住む ②店舗誘致目標20店舗 ③事業経費(保険料・各種手当・旅費・賃借料等)を月90万円とした条件で公募をし、333人の応募から決まった。どういう基準で選出したのかを質問したところ、審査の中でコミュニケーションの仕方も見て判断したとの説明があった。月90万円については、コンサルタントに委託すれば1,000万円はかかるので、12か月で割るとこれくらいだろう、と商工会が判断したとのことだった。

▼ 子育て支援センター(ことこと)は、都市再生整備計画事業として複合機能ビルを整備した1階に入居している。入口の受付で子どもの体温を測り、熱のある場合は利用を断るなど、他の子どもへ病気が移らないよう対応している。床・壁、遊びの場に使われている木の香りに包まれて過ごすことができ、木育に取り組んでいるという説明もされた。

・子どもの貧困対策を進める上で、こどもの現状を見るためにアンケートを取った。貧困調査という視点は出さないように、アンケート項目の設定、調査方法の助言をアドバイザー契約を結んだ方々から受けながら、文言を決めていったという説明を受けた。

▼ アンケートの調査に関しては、子どもは学校にいる時に、保護者には子どもを通して行うなど学校・教育委員会の全面的な協力で回収率は約90%。また、項目の中には、自由記述欄を作ったところ、いじめを受けているなどの書込みもあったとの説明があった。

▼ 子どもの家庭の経済状況を、一つのラインとして年収250万円で分け、現在・将来に対して必要な支援を、アンケートの結果で知ることができた。今後、3つの対策①発見から支援につなぐ体制整備、②子どもへの支援、③保護者への支援に活用していくとの説明だった。

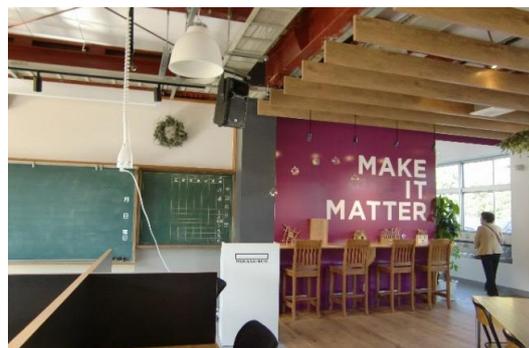
<< 11月9日 (木) >>

宮崎県宮崎市……ローカルシェアリングセンターMUKASA-HAB (現地研修)

廃校になった小学校校舎を利用してフルリノベーションをし、本社ビルとした。その7~8割を3,000円を利用料として会員専用パブリックシェアする形をとっている。カフェを中心に事業を多様な人が集まれる場所としてスタートし、町づくりを進めるMUKASA-HABプロジェクトを地域創生の種を植えるとして、自治体ともアドバイザーとして関わっているとの説明だった。



(来訪者が自由に集える1階の空間)



(黒板は、そのまま活用)

厚生産業常任委員会視察研修報告書

1 視察内容

期日 平成29年11月7日（火）～ 9日（木）

参加者7名 委員6名 久保山委員長、栗野副委員長、大山、河野、牧藪、末次
議会事務局1名 久保山係長

日程・場所・主な研修内容

11月7日	福岡県大刀洗町	公民連携（PFI）による定住促進住宅整備事業
7日	福岡県八女市	やめっこ未来館の取組状況について
8日～9日	宮崎県日南市	油津商店街及び子育て支援センター

2 視察・研修目的

今回訪れた福岡県大刀洗町のPFI方式による地域優良賃貸住宅整備は、同じ様な条件下にある基山町としては、非常に参考になります。基山町の中心市街地にある旧役場跡地の活性化による有効活用は長期にわたる町有財産の死蔵を食い止めるものでもあります。

福岡県八女市の子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組は、保育所の建直しと今後の運営や建設場所に課題が残る基山町として、子育て支援には何が必要かの優先順位と現場の職員の取組を勉強させていただきたい。

宮崎県日南市は基山町の20倍以上の面積の中で、中心地である油津商店街の活性化の取組がなぜ広く視察先として選ばれるのか、現実の商店街の様子、そして中心地から離れた地域の理解について、担当者の意気込みや知識、情報収集力の高さを学びたい。

どの市町も人口減少問題、中心市街地の衰退化は深刻で、若者や子育て世代への取組が市町の死活問題となっている。また、近年は子どもの貧困対策が重要な課題となる。各市町の職員、議会、そして何よりも担当者の意気込み、生の声や現場を見聞きすることで基山町は何をすべきか、議会は、議員は何をすべきかを学びたいと思います。

3 視察先

① 福岡県三井郡大刀洗町 「PFIによる定住促進住宅整備事業」

平成の大合併を行わず単独町政 一般会計平成29年度予算規模 約 91.8億円
面積22.83k㎡、人口15,552人、 世帯数5,287世帯（平成29年3月末）

大刀洗町の取組・・・・・・・・・・定住促進住宅整備事業

- 「スカイラーク菊池」について 平成28年4月入居開始 5階建て27戸
 - ・2LDKタイプ約64㎡ 9戸 入居者負担48,000円
 - ・3LDKタイプ約73㎡ 18戸 入居者負担52,500円
 - ・共益費3,000円、駐車場1台当たり3,000円（2台可）、1階にコミュニティスペース
- 整備目的 1 子ども、子育てに適した住宅・地域を整備し、定住人口の増加
2 公的不動産（町営住宅跡地）有効活用で用地取得費かからず面積約3,400㎡
3 町内経済の活性化、公共交通の利便性良く、保育園・学校、商業施設近い

所感

人口問題は全国各自治体の最重要課題です。大刀洗町も広域的には基山町と同じ経済圏にあり同じ様な課題を抱えていると思います。既に1棟27室が全室入居決定であり2棟目も計画されている。同じ様な条件下にある基山町としては早期の取組が望まれる。

民間にどこまで任せるか、民間企業をしっかりと監視する義務がある。ただ、民間でできる事業の妨げになってはいけない。自治体が主体となって建設する目的の明確化と住民の理解は建設する前に得ておかなければならない。

② 福岡県八女市 「やめっこ未来館」

平成18年と22年に6市町村で合併し、面積480k㎡その66%は山林、人口約7万人
一般会計平成29年度予算規模 約 364億円

子育て支援総合施設「やめっこ未来館」の取組

公立保育所と子育て支援センターの複合施設で保育所の機能と子育ての総合的な支援を行う機能を備えている。「保育所ゾーン」「みらい広場ゾーン」「庭園ゾーン」「一時預かりのお部屋」などが効率よく設置されている。みらい広場では子どもたちが安心して遊べ、子育て中の保護者同士が交流したり情報収集したりできる場を提供している。八女市は基山町の20倍以上の面積があるが、中山間地にある地域への配慮もされており、「移動広場」として子育て情報と相談ごとなどの支援センターを利用しにくい地域に出向いている。

一時預かり事業は、保育所を利用しない家庭も日常の突発的な事情や保護者の非定期的なパート就労や入院・育児疲れなど、一時的に家庭での保育が困難となった場合等に子どもを一時的に預かる事業であり、二人目、三人目の子どもを家庭内で育てる母親や祖父母と同居しなくなった現在の家族構成事情の対策として大きな支援になる。

所感

中途半端でなく、全てにおいて余裕のあるつくりになっている。施設にはキーマンとなる職員がおり、総合施設としての機能をバランス良く運営されていることが感じられる。

この様な複合子育て支援施設は、やはり建設場所が重要であることを認識させられる。

建設計画が持ち上がる時に、運よく低予算で活用できる一定の広さの面積を確保できるかが重要であるが、やはり、いい場所に建設したい。

③ 宮崎県日南市 「魅力あるまちづくり」

面積536.12k㎡、人口 54,090人、世帯数世帯（平成27年国調）高齢化率 35.0%
一般会計平成28年度予算規模約290億円 市のキャッチフレーズ「創客創人」

日南市の取組（油津商店街の中心市街地活性化及び子どもの貧困対策の取組）

1 日南市中心市街地活性化基本計画・・・中心市街地活性化の必要性

日南市と言えば「南国、暖かい」のイメージがある。日本の県都ではない地方都市の悩みや課題を日南市も長い間抱えており、いち早く取り組んだことで、全国の注目を集めている。人口減少の抑制・高齢化社会への対応・消費の流出抑制・外貨の獲得・財源の安定化再生に向けて「来たい・住みたい・魅力あるまちづくり」をめざしている。

ア。「テナントミックスサポート事業」・・・課題解決のため

- ①リーダーシップをとり、各種事業、イベントを総合的にプロデュースする人
- ②現実可能な近未来像を、具体的に描ける人
- ③成果を追求し、事業を着実に推し進め、再生をしってくれる人

以上の3つを解決する「テナントミックスサポートマネージャー」を全国公募

- ① 委託料月額90万円（税別）②採用後は日南市に移住すること③店舗誘致目標20店舗

所感

日本全国の地方都市は、「まちの賑わい」、商品販売形態の変化やサービス業の細分化により閉塞感に陥っており、今までの自分たちの経験や知識が思ったより役に立たないことが分かり始めた。住民と行政が共にまちの将来を考えることに異論はないが、思い切って第三者にまちの将来の一部を委ねることも必要なのかもしれない。でも、思い描く未来図の構想、経費の負担、そして決断は誰にも任せられない。

2 日南市における子どもの貧困対策の取組及び所感

まずは、行政が自分のまちの子どもの生活実態の現状を知る事から貧困対策をたてるという基本的なことから取り組まれている。保護者だけでなく小学4年から中学3年生までを対象に実施されており、保護者の回収率は90%近く、子どもの場合には小中学校、教育委員会の全面的な協力で高い回収率となっている。また、「貧困」という表現はNGであり、子どもと親に同じ様な項目で設問することで認識の差を比較している。ただ調査するだけでなくしっかり分析し、対策をたてることを前提として取り組まれている。

4 まとめ

各市町の担当者は自分のまちに自信をもって「今必要なもの」や「歴史と伝統、そしてそこにあるもの」を生かしたまちづくりをされています。その一方で、「わがまちの知恵」だけでは打破できない課題の打開策としてそして、首長や議会が決断をして「他者の知恵を借りる」という手法もとられています。リーダーや担当者の取り組み次第で町の存続が左右されるのが今の地方の現状です。そこには、「人ありき」「人による」をやはり感じざるを得ません。多くの視察を受け入れているところはそれぞれの担当者が自分の仕事に誇りと自信をもって取り組まれています。

首長、市町執行部、そして議会をも巻き込んで一丸となって取り組まないとうまくいかないとも改めて思いました。



(日南市子育て支援センター「ことこと」 名産品の飴肥杉をふんだんに使ってある)